

矢祭子ども司書認定式にあたって

子ども司書の学びをした君たちへ

この一年、あなたたちは、学校の授業とは違う場で、たくさんの新しい学びをしてみましたね。

川の流れるある公園での俳句の季語探し、絵本作家のあべ弘士さんの「動物の描き方ワークショップ」、手づくり絵本コンサート、すすめたい本を選んでの紹介カードづくり、そして図書館でのいろいろな仕事の實習など、どれも楽しかったり、大変だったり、いろいろだったでしょうが、それら一つ一つの経験は、あなたたちにとって忘れられないものになったと思います。

私はよく思うのですが、一つの大事な経験をして、自分の知識が増えたり、心が成長したりした時、もしその経験がなかったら、自分はもうどうだったろうかと考えてみるのが、いかに大切かということです。

もしその経験をしなければ、知識は増えなかったし、心の持ち方も変わらなかったでしょう。子ども司書の学びについても、同じことが言えますね。もし子ども司書の講座に興味も持たず参加もしなかったら、この一年間に学んで身につけたことが何ひとつなかった一年間だったのですね。

子どもは、いろんなことにチャレンジすることで、どんどん心が成長するのです。成長するというのは、自分の人生を切り開くことです。

昨年、子ども司書の認定を受けた後、読書推進リーダーとしておはなし会などでの活動に積極的にかかわった三人が、今日一緒に表彰を受けることも聞きました。子ども司書になったことによって、学校での生活に新しい日々を切り開いたのですね。応援団の私としても、とても嬉しいことです。

今日、新たに認定を受けて子ども司書の資格を身につけた十一人の君たちが、これからの活動をおして、さらに成長することを期待しています。
おめでとう！

平成二十六年三月二日

作家 柳田 邦男